

授業概要

小学校教員免許取得、小学校教員を目指す人を対象に小学校の国語科を中心に授業研究を行う。
 春期は、主に小学校国語科の読みを中心に教材研究を行う。毎時間、各自の教材研究の発表を通して、全員で議論しながら進める。
 秋期は、春期の学びをもとに、受講生各自、小学校の授業に関し、テーマを決めて、レポートを作成し発表、議論し、その成果を相互交流し学びを深める。

授業計画

第1回	ガイダンス1（前半授業概要）	第16回	ガイダンス2（後半授業概要）
第2回	小学校国語教材研究①	第17回	小学校授業に関する研究テーマ検討①
第3回	小学校国語教材研究②	第18回	小学校授業に関する研究テーマ検討②
第4回	小学校国語教材研究③	第19回	小学校授業に関する研究①
第5回	小学校国語教材研究④	第20回	小学校授業に関する研究②
第6回	小学校国語教材研究⑤	第21回	小学校授業に関する研究③
第7回	小学校国語教材研究⑥	第22回	小学校授業に関する研究④
第8回	小学校国語教材研究⑦	第23回	小学校授業に関する研究⑤
第9回	小学校国語教材研究⑧	第24回	小学校授業に関する研究⑥
第10回	小学校における国語科の授業①	第25回	小学校授業に関する研究⑦
第11回	小学校における国語科の授業②	第26回	小学校授業に関する研究⑧
第12回	小学校における国語科の授業③	第27回	研究成果報告と討論①
第13回	小学校における国語科の授業④	第28回	研究成果報告と討論②
第14回	小学校における国語科の授業⑤	第29回	研究計画の発表
第15回	春期のまとめ	第30回	秋期まとめ

到達目標

小学校授業設計、教材研究について、主に国語科を中心に学び、子ども主体の授業を実践する力を修得する。

履修上の注意

毎時間、各自が教材の読みを発表する。議論には、積極的参加を求める。
 毎回出席すること。20分以上の遅刻は欠席扱いとなるので注意する。

予習復習

事前に次の授業の内容や読むべき教材について考えをまとめる。

評価方法

授業内容の討論、発表、レポートにおける積極性や内容など総合的に評価する。

テキスト

特に指定しない。必要となる文献等については適宜告知する。

授業概要

日本と世界の童話や昔話などから代表的な物語（グリム童話など）を指導するとともに、研究発表のやり方をも指導します。それに基づいて、一人一人が自分の興味に従って童話や昔話を選び、調査・考察を重ねて研究発表を行います。聞き手も、発表内容について意見・感想・疑問点等を述べ、意見交換や討論を行います。卒業論文を書くことにつながるように、発表内容をレポート化することや隣接分野の書籍を読むことについても指導を行います。

また、図書館・博物館などの外部施設見学も行います。

授業計画

第1回	オリエンテーション	第16回	研究発表②（世界の昔話）
第2回	日本の昔話概説	第17回	研究発表③（世界の昔話）
第3回	研究発表①（日本の昔話）	第18回	研究発表④（世界の昔話）
第4回	研究発表②（日本の昔話）	第19回	研究発表⑤（世界の昔話）
第5回	研究発表③（日本の昔話）	第20回	世界の童話概説
第6回	研究発表④（日本の昔話）	第21回	研究発表①（世界の童話）
第7回	研究発表⑤（日本の昔話）	第22回	研究発表②（世界の童話）
第8回	日本の童話概説	第23回	研究発表③（世界の童話）
第9回	研究発表①（日本の童話）	第24回	研究発表④（世界の童話）
第10回	研究発表②（日本の童話）	第25回	研究発表⑤（世界の童話）
第11回	研究発表③（日本の童話）	第26回	施設見学①（国際子ども図書館等）
第12回	研究発表④（日本の童話）	第27回	施設見学②（東京子ども図書館等）
第13回	研究発表⑤（日本の童話）	第28回	施設見学③（ちひろ美術館等）
第14回	世界の昔話概説	第29回	施設見学④（アンデルセン公園等）
第15回	研究発表①（世界の昔話）	第30回	施設見学⑤（周辺見学等）
		第31回	総まとめ（レポート解説）

到達目標

日本と世界の代表的な童話・昔話についての基礎知識を習得します。また、物語の研究調査及び研究発表の方法を身につけ、実際に研究発表する力をつけます。同時に、他の発表者の発表から学ぶ姿勢も身につけます。

履修上の注意

授業参加度を重視します。授業中に、毎回、交互に研究発表を行い、その発表内容を評価します。また、聞き手は発表についての意見・感想・疑問等を述べますが、それも評価に加えます。

さらには、施設見学レポート等の提出物も評価に含めます。

童話・昔話を中心に多数の様々な書籍を読み研究発表を行うので、地道にコツコツと努力できる人に向いています。無断で発表を欠席した場合は、単位を放棄したものとみなします。

また、土日祝日や長期休暇期間中に授業を振り替えて図書館・博物館などの外部施設見学も行います。見学施設は、その時点での展覧会や展示等の内容により決定します。

遅刻は20分以内までとし、遅刻3回で欠席1回とします。

予習復習

研究発表を中心に行いますので、調査したり考察したりまとめたりする作業は、授業内だけでは不十分ですので、事前の自主学習が必要となります。また、研究発表の際に提示された問題点等を解決するための復習も必要となります。

評価方法

授業態度、授業参加度、研究発表、提出物（レポート等）

研究発表（研究レポートを書く）70%、受講態度30%

テキスト

教材・参考書等は、授業中に指示します。

授業概要

教育学の基礎的文献を用いて、親子学など教育学の基礎を学ぶ。また、グループワークとして、教育に関する研究を行い発表することにより、プレゼンテーション力を養う。適宜、DVD、ビデオを使用する。学外での授業見学などを行う場合もあるが、基本的には学内での活動となる。

授業計画

第1回	春期ガイダンス	第16回	秋期ガイダンス
第2回	歴史の中の子ども(1)	第17回	グループワーク(1)
第3回	歴史の中の子ども(2)	第18回	グループワーク(2)
第4回	親子学(1)	第19回	グループワーク(3)
第5回	親子学(2)	第20回	中間発表会
第6回	親子学(3)	第21回	グループワーク(4)
第7回	親子学(4)	第22回	グループワーク(5)
第8回	親子学(5)	第23回	グループワーク(6)
第9回	親子学(6)	第24回	グループワーク(7)
第10回	親子学(7)	第25回	発表と検討会(1)
第11回	親子学(8)	第26回	発表と検討会(2)
第12回	育児ストレス(1)	第27回	発表と検討会(3)
第13回	育児ストレス(2)	第28回	発表と検討会(4)
第14回	育児ストレス(3)	第29回	発表と検討会(5)
第15回	まとめ	第30回	発表と検討会(6)

※外部講師を招いて講義を行うことがあります。

到達目標

教育学の基礎を学んだ上で、意欲的に研究し、分析、発表することで自立性や独自性を高める。

履修上の注意

積極的な参加を期待します。

予習復習

テキストを事前に読み、授業後は、その考察を行うこと。

評価方法

受講態度、発表で判断します。

テキスト

授業中に指示する。

授業概要

この授業は、現代社会の課題の中から、授業履修者の興味のある問題について、グループ研究を行っていく。具体的には、グループごとのテーマ設定を行い、「調査・研究」をして、グループの参加者が分担しながら報告書を作成していく作業を経験していく。そして、完成後には人前での発表することも経験してもらう。

ここで対象とするテーマは、教育問題に限定することなく、あらゆる関心のあることを取り上げていく。

また、本授業では、研究方法について学んでもらうため、講義者が対応できる歴史学手法と社会学的手法について基礎的な学習の機会も予定している。

なお、実地的経験のため、年間数回の学外調査を予定している（土・日など）。

授業計画

第1回	授業を始めるにあたって	第16回	夏休み中の調査発表①
第2回	現代社会にはどのような問題があるか	第17回	夏休み中の調査発表②
第3回	関心のあることを探してする	第18回	課題についての先行研究を調べる①
第4回	研究とは何か	第19回	課題についての先行研究を調べる②
第5回	社会学について	第20回	文献資料の批判につて
第6回	研究したいテーマを発表する	第21回	グループ作業①
第7回	課題について分類化する	第22回	グループ作業②
第8回	前回の分類化をもとにグループ化する	第23回	グループ作業③
第9回	グループごとにテーマを考える①	第24回	グループ作業④
第10回	グループごとにテーマを考える②	第25回	報告書の作成①
第11回	研究方法を発表する	第26回	報告書の作成②
第12回	学外調査①	第27回	報告書の作成③
第13回	学外調査②	第28回	グループ発表①
第14回	調査のまとめ	第29回	グループ発表②
第15回	グループ発表	第30回	授業のまとめと今後の課題

到達目標

- ①社会問題の中から学生自身が課題と考えるテーマを導き出せるようになる。
- ②類似したテーマを持つものが互いに意見交換しながら報告書を作成できるようになる。

履修上の注意

グループ作業が多いので他の参加者に迷惑をかけないようにする。欠席なども他人に作業を押し付けることにもなるので気をつける。

学外調査を行う予定であり、安易に欠席をしないこと。

予習復習

授業で出された課題は必ず行うこと

評価方法

日々の課題や報告書の内容、発表などを総合して行う。

テキスト

授業において、学生の関心あるテーマに沿ったものを紹介する。

授業概要

小学校教員を目指す人を対象に、授業を行うための基礎的な事項を学ぶ。

テキストを読み進める（各自は予習として各章ごとに通読をし、そこにある課題を必ずやってくるという反転授業の形式で行う）と共に、次時にはそれに関連する具体的な課題を取り上げ、全員で議論をしながら演習を進める。

授業計画

第1回	オリエンテーション	第16回	評価の方法—学びをどう捉える？②
第2回	よい授業とは	第17回	教師の振る舞いの基礎基本①
第3回	インストラクショナルデザインとは①	第18回	教師の振る舞いの基礎基本②
第4回	インストラクショナルデザインとは②	第19回	学習意欲を高める方法①
第5回	授業の構想—学習目標を明確にする①	第20回	学習意欲を高める方法②
第6回	授業の構想—学習目標を明確にする②	第21回	協同的な学びをデザイン①
第7回	学力とは①	第22回	協同的な学びをデザイン②
第8回	学力とは②	第23回	情報社会に適応①
第9回	教材研究の方法—何を教える？①	第24回	情報社会に適応②
第10回	教材研究の方法—何を教える？②	第25回	授業の分析①
第11回	学習指導案の書き方—どう教える①	第26回	授業の分析②
第12回	学習指導案の書き方—どう教える②	第27回	学び続ける教師①
第13回	目標・指導・評価—子どもは学んだ？①	第28回	学び続ける教師②
第14回	目標・指導・評価—子どもは学んだ？②	第29回	学び続ける教師③
第15回	評価の方法—学びをどう捉える？①	第30回	演習のまとめ

到達目標

教師の仕事について、教師の立場から重要点を、具体的な事例をもとに説明することができる。
 子どもの学びについて、配慮すべき事柄を、いくつかの事例をあげて、説明することができる。
 演習を通して、アクティブ・ラーニングのよさを体得し、主体的に学ぶ態度を形成する。

履修上の注意

次時まで、必ずテキストを読み、章末にある課題をやってくるのが求められる。

原則、遅刻は認めない。

他者の考え方をよく聴き、それにもとづき自分自身の考えを持つ（変容する）ようにし、それを他者に伝達する努力が求められる。

予習復習

テキストの指定された箇所（章）を、次時まで読み、そこにある課題を行ってくる。

この事が済んでいる（できている）という前提で、演習は行われる。

評価方法

予習（反転授業）の有無やその成果、演習での討議への参加度、レポート等を総合的に評価する。

テキスト

稲垣忠・鈴木克明編著「授業設計マニュアル Ver.2—教師のためのインストラクショナルデザイン—」北大路書房（定価：2200円＋税）を用いる。

約200ページのテキストを1年間で読破するのですから、テキストを読んでくるというノルマは、1回あたりの分量としては、たいしたことはありませんね（200頁÷30回 or 200頁÷15回ですから）。

授業概要

福祉施設に興味があり、就職を希望する学生を対象とする。春期は施設の概要を学び、秋期はそれぞれの施設について ①施設の概要 ②社会の中での役割 ③課題と改善点などを調べて発表する。

授業計画

第1回	障害者の施設	第16回	発表の方法とレジュメの作り方
第2回	障害者の施設	第17回	テーマを決める
第3回	障害者の施設	第18回	発表
第4回	障害者の施設	第19回	発表
第5回	障害者の施設	第20回	発表
第6回	高齢者の施設	第21回	発表
第7回	高齢者の施設	第22回	発表
第8回	高齢者の施設	第23回	発表
第9回	高齢者の施設	第24回	2度目の発表
第10回	高齢者の施設	第25回	2度目の発表
第11回	低所得者の施設	第26回	2度目の発表
第12回	低所得者の施設	第27回	2度目の発表
第13回	低所得者の施設	第28回	2度目の発表
第14回	低所得者の施設	第29回	2度目の発表
第15回	低所得者の施設	第30回	まとめ

到達目標

自分が将来就職したい福祉施設について、深く研究する。

履修上の注意

現在の福祉をよりよくしようという意欲をもって臨むこと。

予習復習

発表の当番の前に、調べたことを1枚のレジュメにまとめて、提出。

評価方法

発表の内容と授業への貢献度により評価する。

テキスト

コピーを配布する。

授業概要

身近な疑問をテーマとし、問題設定、調査、統計処理、考察、発表などを経験しながら、研究の大まかな流れを理解できるよう指導する。研究の大まかな流れを把握できたら、障害に関わる専門的な内容（例、発達障害、知的障害、インクルーシブ保育、学校適応、障害児心理、学習教材など）について、簡単な研究を行い、障害について理解を深められるよう指導する。

授業計画

第1回	春期オリエンテーション	第16回	秋期オリエンテーション
第2回	研究の流れを知る	第17回	研究手順の再確認
第3回	身近な疑問からテーマを検討する	第18回	障害に関するテーマの検討
第4回	テーマに関する現状把握	第19回	テーマに関する現状把握
第5回	テーマに関する現状把握	第20回	テーマに関する現状把握
第6回	調査方法の検討	第21回	調査方法の検討
第7回	調査方法の検討	第22回	調査方法の検討
第8回	調査の実施とデータ処理	第23回	調査の実施とデータ処理
第9回	調査の実施とデータ処理	第24回	調査の実施とデータ処理
第10回	データの解釈	第25回	データの解釈
第11回	データの解釈	第26回	データの解釈
第12回	発表資料作成	第27回	発表資料作成
第13回	発表資料作成	第28回	発表資料作成
第14回	発表	第29回	発表
第15回	発表	第30回	発表

到達目標

- ・研究の全体の流れを理解する。
- ・障害に関する問題に触れ、どのような課題があり、どのように対応していったら良いのかを考える力を獲得する。

履修上の注意

- ・グループで作業する場合もあるため、協調性が必要であるとともに、自分の考えを積極的に発言することが必要である。
- ・他者の考えを批判するだけなら誰でもできる。批判するのと同時に解決方法を述べる姿勢を持つこと。
- ・データベースの利用、情報整理、発表の際、パソコンを使用する。
- ・遅刻3回で欠席1回として扱う。また、20分以上の遅刻は欠席として扱う。
- ・学外調査を行う場合がある。

予習復習

課題の作成やプレゼンテーションの準備のために授業以外の自主学習が不可欠である。

評価方法

出席状況、授業への取り組み方（意欲・積極性、責任感、探究心、協調性等）、課題内容、発表内容、理解度から総合的に評価する。

テキスト

適宜資料を配布する。

授業概要

心理学（臨床・学校・発達・ポジティブ心理学など）の基礎的文献を用いて、子どもの成長・発達や発達障害などに関する心理学的な視点からの調査方法について指導する。授業では、子どもや教育的問題を中心とした社会的課題や興味・関心、疑問を抱いているテーマについて、心理学を基本とした調査研究の方法を指導する。基本的にはグループ研究を行うが、最終的なレポートは個人で作成する。

学外での授業見学や行動観察などを行う可能性もあるが、基本的には学内での活動となる。

授業計画

第1回	春期ガイダンス	第16回	秋期ガイダンス
第2回	現代社会における課題・問題	第17回	夏休み中の調査発表
第3回	自分の興味・関心あるテーマの探求	第18回	グループワーク（1）
第4回	研究について学ぶ	第19回	グループワーク（2）
第5回	心理学と心理学的研究方法について	第20回	グループワーク（3）
第6回	個人研究テーマの発表	第21回	中間発表会
第7回	グループごとのテーマ設定	第22回	グループワーク（4）
第8回	グループごとのテーマ設定	第23回	グループワーク（5）
第9回	研究方法の決定と発表	第24回	グループワーク（6）
第10回	小論文（個人レポート）の書き方	第25回	発表と検討会（1）
第11回	基礎演習：グループ調査の実施①	第26回	発表と検討会（2）
第12回	基礎演習：グループ調査の実施②	第27回	発表と検討会（3）
第13回	調査のまとめ	第28回	個人レポート作成（1）
第14回	調査のまとめ	第29回	個人レポート作成（2）
第15回	グループ発表	第30回	授業のまとめと今後の課題

到達目標

- ・心理学的視点による課題設定や検討・考察の方法について体験的に習得する。
- ・基本的な文章作成、ならびに心理学的調査・研究の方法について習得する。
- ・ディスカッションやプレゼンテーションを通じて自分の意見を論理的に説明するスキルを習得する。

履修上の注意

議論への積極的な参加、グループ作業において他の参加者との協力、円滑な活動をしようとする姿勢を求める。遅刻は3回で、1回欠席とみなす。

予習復習

研究発表や調査が中心の授業のため、授業内での学習だけでなく、自主学習が必要となる。

評価方法

出席状況、授業態度、課題や授業への積極性、研究発表や提出物（レポートなど）の内容から総合的に判断。

テキスト

授業内に指示する。